



## DNW-22020 の概要

課題名 : 悪性化シグナルに関わる新規分子を標的としたがん治療薬の探索

主任研究者 (Principal Investigator) :

佐藤 元彦 (学校法人愛知医科大学医学部)

ステージ : 標的検証後期

### 【標的疾患】

前立腺癌、乳癌、胃癌、悪性黒色腫、膵癌、頭頸部癌等

前立腺癌については、ホルモン療法が効きにくいアンドロゲン非依存性前立腺癌

### 【創薬標的】

がんの悪性形質を担うシグナル分子 X

### 【創薬コンセプト】

がんにおいて高発現で認められ、発現レベルが生命予後と相関することが示されている標的分子 X と生体内因子 Y との相互作用を阻害することにより、がん細胞の増殖能・悪性形質を抑制する。

### 【ターゲットプロダクトプロファイル】

標的分子 X が高発現しているがん (前立腺癌、乳癌、胃癌、悪性黒色腫、膵癌、頭頸部癌等) に対して、がん細胞の増殖、浸潤又は転移を抑制し、延命効果を発揮する低分子経口薬又は注射薬

### 【モダリティの設定】

低分子化合物

### 【創薬コンセプトの妥当性を支持するエビデンス】

以下のことが PI らにより明らかにされている。

- 1) 標的分子 X 発現抑制による細胞内シグナル及び細胞機能の抑制を見出した。
- 2) X と Y との相互作用によって担われるシグナル伝達のメカニズムを見出した。

### 【科学的、技術的な優位性】

独自性及び革新性の高い研究成果 (創薬コンセプトの妥当性を支持するエビデンス) に基づく研究である。

**【支援ステージにおける目標】**

1. HTS 評価系を含むスクリーニングフローを構築する。
2. X 阻害の抗がん剤標的としての妥当性を確認する。

**【関連特許】**

関連特許出願あり

本資料は、創薬総合支援事業（創薬ブースター）による支援の終了時の情報をもとに作成しています。